



遺跡のおよそ半分が鉄を作るときに出てきたゴミの山でできています

製鉄炉をつくった人は不明ですが、持ち主は藤原仲麻呂だということがわかっています

中臣鎌足のひ孫にあたる人物で藤原道長の遠い親戚です

立命館大学のグラウンドの地下に保存されています

ぼけわらいせき
木瓜原遺跡

遺跡の周辺が植物のボケの原生林だったことがわかってきました

グラウンドは「クインスタジアム」といい、「クインス」は「木瓜」英名です

鉄をつくる時に火を強くするための風を送っていました(フィゴ)



製鉄炉
奈良時代、寺の鐘や武器などをつくるために鉄が産されました

遺跡は立命館大学に発見された1991年に発掘調査が始まりました

当時は鉄鉱石のある山が少なく、砂鉄から鉄をつくる場所が多かったのですが、滋賀県には鉄鉱山があったようです

